

品質工学、静特性、誤差因子 2 つの場合でデータの構造式、変動に目標値 m が除去できる理由

(0) (両辺)の 2 乗和を取ります

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - m)^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \{(\bar{y} - m) + (\bar{y}_i - \bar{y}) + (\bar{y}_j - \bar{y}) + (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})\}^2$$

(1) (両辺)を展開します

$$\text{(左辺)} = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 - 2m \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij} + knm^2$$

$$\begin{aligned} \text{(右辺)} &= kn(\bar{y} - m)^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2 \\ &+ 2(\bar{y} - m) \{ \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y}) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y}) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y}) \} \\ &+ 2 \sum_{i=1}^k (\bar{y}_i - \bar{y}) \sum_{j=1}^n \{ (\bar{y}_j - \bar{y}) + (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y}) \} \\ &+ 2 \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y}) \sum_{i=1}^k (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y}) \end{aligned}$$

実は、赤字部分はすべて 0 になります。(実際解いてみるといい演習になります。)

さらに(両辺)から knm^2 を引くと

$$\begin{aligned} &\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 - 2m \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij} \\ &= kn(\bar{y}^2 - 2m\bar{y}) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2 \end{aligned}$$

と変形できます。

(2) 目標値 m 項が除外できます

よく見ると、

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij} = kn\bar{y} = (\text{データの総和})$$

ですから、

$$\begin{aligned} &\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 - 2m \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij} \\ &= kn(\bar{y}^2 - 2m\bar{y}) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2 \end{aligned}$$

の赤字部分は除去できます。

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 = kn(\bar{y}^2) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$$

そして、 $kn(\bar{y}^2) = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \bar{y}^2$ に戻すと、元の式は

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \bar{y}^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$$

と目標値 m 項が除外でき、データの構造式も

$$y_{ij} = \bar{y} + (\bar{y}_i - \bar{y}) + (\bar{y}_j - \bar{y}) + (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})$$

と書くことができます。

この目標値を無くした式が教科書で一般的に書かれた

データの構造式であり、

2乗和が各変動成分

となっています。

(3) 2乗和を S で表記

① 目標値 m を省かない場合

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - m)^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \{(\bar{y} - m) + (\bar{y}_i - \bar{y}) + (\bar{y}_j - \bar{y}) + (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})\}^2$$

は展開すると、

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - m)^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y} - m)^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$$

と展開できます。(前項をもとに実際演習してみてください。)

各項の 2 乗和を S で表記します。

- 全変動 : $S = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - m)^2$
- 平均変動 : $S_m = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y} - m)^2$
- 誤差因子 N による変動 : $S_N = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2$
- 誤差因子 O による変動 : $S_O = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2$
- 誤差変動 : $S_e = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$

すると、

$$S = S_m + S_N + S_O + S_e$$

が成り立ち、2乗和の分解ができることがわかります。

② 目標値 m を省く場合

前項の計算結果から

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \bar{y}^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$$

の各項の 2 乗和を S で表記すると、

- 全変動 : $S = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n y_{ij}^2$
- 平均変動 : $S_m = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n \bar{y}^2$
- 誤差因子 N による変動 : $S_N = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_i - \bar{y})^2$
- 誤差因子 O による変動 : $S_O = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (\bar{y}_j - \bar{y})^2$
- 誤差変動 : $S_e = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^n (y_{ij} - \bar{y}_i - \bar{y}_j + \bar{y})^2$

すると、

$$S = S_m + S_N + S_O + S_e$$

が成り立ち、2乗和の分解ができることがわかります。

公式暗記せず、意味を理解して、数式で導出すれば

しっかり理解できますね！